

分野名：青少年教育

## 赤坂元気プロジェクト

### ～子どもの体と心を「食」で応援～

福岡市赤坂公民館【公立公民館】 館長 鮎川 清  
主事 中村留美子

#### 1. 事業名

子どもの健全育成関連事業「赤坂元気プロジェクト」

#### 2. 事業の目的

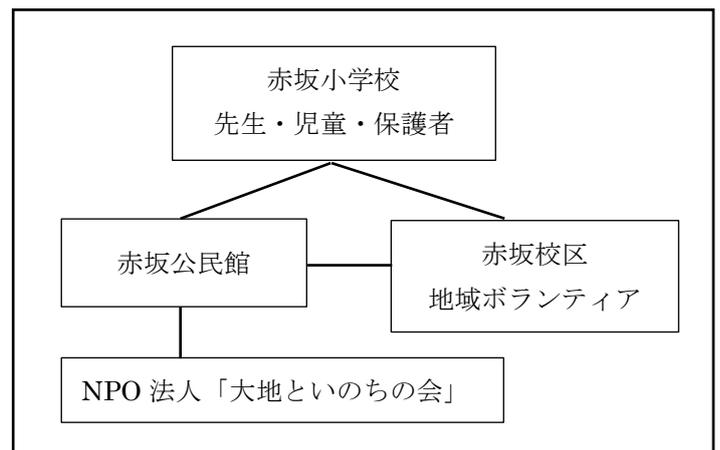
小学校と公民館、地域住民が連携し、子どもの体と心を「食」で応援する。

#### 3. 事業の主体

福岡市赤坂公民館

#### 4. 連携・協力機関・団体等

- ・福岡市立赤坂小学校
- ・地域ボランティア
- ・NPO 法人「大地といのちの会」



#### 5. 実施に至る経緯

○平成 15 年

「子ども育成会」が消滅し単位子ども会が殆ど無くなった。学校とPTA、公民館、地域が一緒になって何回も話し合いを重ねたが復活は叶わず。

○平成 17 年～18 年

子どもの受け皿として土日に公民館で事業を実施したが、塾や習い事が忙しくなかなか集まらない。公民館に来れないのであれば、フィールドを学校に移し、子ども達を巻き込むことができないか模索。

○平成 19 年～21 年

小学校に相談。5、6年生で構成する「環境委員会」で、コンポストを用いた生ごみのたい肥化や畑作りなど環境学習の活動を開始。

○平成 21 年～令和 6 年

小学校に「食育」の取組を相談。4年生を対象に「赤坂元気プロジェクト」を開始。

○平成 28 年～令和 6 年

関連食育事業として、自分が食べるものは自分で作ろうをコンセプトに、おにぎりを握ってみそ汁を作る「夏休み子どもおにぎり塾」を公民館で開催。夏休み中の 7 月下旬、小学校と公民館、地域ボランティアとの連携事業として現在まで継続中。

## 6. 事業の内容

### ① 開始前のアンケート

「イライラしますか?」「集中力はありますか?」「夜はぐっすり眠れますか?」などといった日ごろの生活の中での気持ちや生活習慣を問うアンケートに子どもが記入。取組後も同じアンケートを取り、取組前後の気持ちや生活の変化をデータ化する。

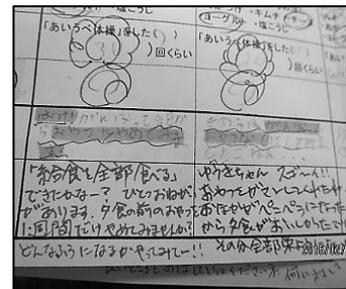
### ② 開始前の講話

講師の話を聞いて、取組の具体的なポイントや、この取組がなぜ必要かを理解させる。



### ③ 取組開始

子ども達が 3 週間毎日、体温や排便の状態、また「旬の野菜を食べよう」「ひと口 30 回噛む」「のどが乾いたら水かお茶を飲もう」などといった項目が実践できたかどうかを「健康チェック表」に記入し、感想も記入する。



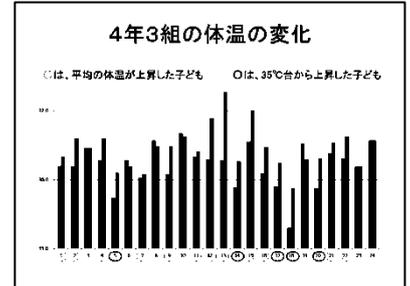
### ④ 子ども達と地域ボランティアとの交流

「健康チェック表」を毎日回収し、地域のボランティアが、子ども達一人一人の体温や排便の状態、食べたもの、子ども達の感想を読み、その子への返事を書いて、交換日記のようなやり取りを毎日していく。



### ⑤ 実施後の講話

3週間の取組後の講話の中で、体温や排便、アンケートから出た取組前後の違いをグラフにして示すことで、体調や生活、気持ちの変化などを子ども達から引き出し、食事の大切さについて気づかせる。



## 7. 事業の成果

- 子ども達は、「食」と「体、生活、心」が繋がっていることを実感。
- 15年間取り組んできて、小学校との固い連携が長く続いていること。
- 地域の人達は関わることで子ども達への愛情が増し、子ども達は地域に見守られているという安心感を得る。

## 8. 今後の課題

- 子ども対象の取組ではあるが、保護者への理解もさらに深めていくことが必要である。
- ボランティアが高齢化してきており、持続可能な取組となるよう新しい人材の確保が必要である。

### 問合せ先

福岡市赤坂公民館

〒810-0042 福岡市中央区赤坂2-5-126

TEL 092-751-4691 FAX 092-751-7734

E-mail : akasaka37@jcom.home.ne.jp